

第 3 委 員 会

【質問 1 「みんながより健康になるための取り組みについて」】

私たちは、みんながより健康になるための取り組みについて話し合いました。大切なのは、健康づくりを応援することと、広める事だと思います。

まず、誰もが健康に気をつける生活を送るため、「健康応援手帳」や「健康アプリ」をつくとよいと思います。継続して記録すると、ポイントがたまってスポーツ施設等の優待券がもらえたり、アプリを利用したときには、キャラクターが応援してくれたりするなど、市民が楽しみながらより健康になる努力をするのではないかと考えました。



次に、笑いとコミュニケーションが大切だと考えます。笑いは健康によいと聞くので、「笑いの日」を作り、「笑いヨガ」や、芸人さんとの



お笑い対決をするなどのイベントを開いたらどうでしょうか。新喜劇とコラボして健康についてのお芝居にしてもよいと思います。イベントに参加したら健康グッズがもらえるなどの特典を付けることにより、たくさんの人に参加してほしいと思います。

大阪は笑いの町です。誰もが笑いながら健康づくりに取り組める町にしたいと考えます。私たちの提案について、市長の考えをお聞かせください。

【市長答弁要旨】

- 皆さんが、人生を楽しく暮らしていくために、健康であることは何より大切である。日本人の平均寿命がどんどん伸びている中、重要なのは健康寿命と言われている。
- 2025年大阪万博も「健康」を重要なテーマのひとつに入れている。
- まず一つ目の質問の「健康応援手帳」の取り組みについて、大阪市では、自分の健康の管理や健康診断の結果などを記載して、自分の健康を守るための情報を管理する「健康手帳」を作っている。この「健康手帳」は、成人式を迎え、二十歳になった時に希望される方にお渡ししているもので、皆さんも成人式を迎えたらこ

の「健康手帳」を使って、健康で長生きで元気に人生を楽しんでもらいたいと思う。

- 健康アプリについても素晴らしい意見だと思う。これは来年の平成 31 年の 10 月から大阪市内を含む大阪府内全域で健康アプリを使ったポイント事業を始めようとしているところである。
- また、笑いを組み込もうというのは非常に重要な視点だと思う。最先端のがん治療、あるいは認知症についても、笑いがいかに影響するのかという研究が進んでいる。この笑いと健康というのは非常に密接な関係、プラスの効果を及ぼすとされている。
- 大阪市でも笑いの力で大阪を元気にしていこうということで、24 区それぞれに「大阪市 24 区住みます芸人」という方がいて、いろんなイベント行事にボランティアで参加してもらい皆さんを笑いでもって元気にしていこうという政策も今すすめているところである。また、吉本新喜劇の有名な芸人さんに参加してもらい百歳体操のDVDを作製する取り組みも行っている。



【質問 2 「障がいのある人もない人もくらしやすいまちづくりについて」】



私たちは、障がいのある人もない人もくらしやすいまちづくりについて考えました。

大切なのは「安心であること」だと考え、アイデアを出し合いました。

一つ目は、「知る」ということです。障がいがある人となない人が関われる交流会の開催です。交流会を開くことでお互いの気持ちを知ることができ、安心できると思うからです。具体的には、食事やスポーツ、ゲームなどを一緒に楽しむイベントを開いたり、車いす

などの体験会を開いたりすると良いと思います。また、周りの人がサポートしやすいように、サポートが必要な人がつけるバッジを作成するのはどうでしょうか。バッジのデザインをたくさんの人から募集し考えてもらうことで、多くの人々がバッジに親しみをもち、バッジをつけている人に話しかけやすくなると思います。

二つ目は、道路を整える事です。スロープは増えてきていますが、実際に実地調査で行った施設では、車いすでの移動のとき、たくさんの段差があり、困ったという声がありました。道路に「安心ゾーン」を作り、段差をなくし、路面や電子黒板に絵をかいたり、音が出るようにしたりすると、目や耳が不自由な人も安心して歩けると思います。

大阪市の取り組みと、市長の考えを教えてください。



【市長答弁要旨】

- まずご提案にある通り、知ることについては非常に重要である。毎年2月に国際親善女子車椅子バスケットボール大会を開催しているが、その車椅子の皆さんに様々な小中学校を訪問してもらって交流会などもすすめている。また、大阪市には2カ所、長居と舞洲に障がい者の皆さんのためのスポーツセンターがある。そこでは、夏祭りやフェスティバルをやったり、手話とか点字のボランティアの皆さんを養成したり、様々な行事や事業を行っている。
- 支えが必要な方に対してのバッジなどを作ったらどうかということについては、援助とか配慮が必要な方にはヘルプマークというのをお配りしている。また、ちょっとした手助けをしようという「愛サポーター」という取り組みをすすめている。これは、市民の皆さんが知識を得て、ちょっとした手助けや配慮をしていこうという運動である。
- 道路を整備することについて、例えば駅から病院などに行く時の道で、障がいのある方が行きやすいようにするために、点字ブロックを集中的に設置したり、段差をなくしたり、あるいは傾きを緩やかにするという取り組みを進めている。
- ご提案のある画像や音を使ったものと、案内の取り組みについては、災害の時の重要な伝達情報などの分野で進んでいるところもあるが、まだまだ道路においては進んでいないと思う。最近ITの分野、最先端の技術というのがどんどん進化しているので、こういった新たな手法を、本市でも取り入れて、活用していきたい。
- 障がいのある方やない方が共にくらしやすいまちづくりを目指していこうという気持ちや思いを持つということが一番大事だと思う。そういう思いを持って、具体的に何が自分にできるのかを考え第一歩を踏み出してもらえたらと思う。それこそが安心でみんながくらしやすいまちになると思う。